

別添様式 3

介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 社会医療法人社団 三思会

研修事業の名称 あつぎ介護職員研修センター・介護職員初任者研修(通学)

1 職務の理解 ( 6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	3 時間	(講義内容) ○介護とは何か、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅ケア」などの実践について介護がどのような環境で、どのような仕事を行うのか具体的なイメージを形成する 介護保険内サービス（居宅、施設）および、介護保険外サービス等を理解する (演習内容) ○各種介護サービスについて DVD を活用し、介護サービスの内容および介護サービス提供現場を理解する
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 時間	(講義内容) ○居宅、施設サービス現場におけるそれぞれの仕事内容を理解する ○介護サービスが提供されるまでのケアプランからサービス提供までの一連の流れと、他職種連携などのチームアプローチでかかわる仕事であることを理解する (演習内容) 各種介護サービスについて DVD を活用し、介護職の業務の理解を深める
合計	6 時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援 ( 9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	4 時間	(講義内容) ○介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援・介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たって基本的視点、及びやってはいけない介護、行動例 ア)人権と尊厳の保持について イ) ICF について ウ) QOL について エ) ノーマライゼーションについて オ) 虐待防止、身体拘束禁止について カ) 個人の権利を守る制度の概要について (演習内容) 事例を示し、介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることが理解できるようにグループワークを行う

②自立に向けた介護	5 時間	<p>(講義内容)</p> <p>○自立支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供の基本視点</li> <li>・具体的な事例を複数示し利用者の残存機能を活用しながら自立支援や重度化の防止、遅延に資するケアを促す</li> </ul> <p>○介護予防について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防の概念を理解する</li> <li>・一次予防事業である、高齢者が参加しやすい教室開催への取り組み等の理解</li> <li>・二次予防事業の 6 つの視点である①運動器の機能の向上②栄養改善③口腔機能の向上④閉じこもり予防・支援⑤認知機能低下予防・支援⑥うつ予防・支援等の理解</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <p>自立支援・介護予防の考えに基づいたケアを、事例を用いてグループワークで学ぶ</p>
合計	9 時間	
3 介護の基本 ( 6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 時間	<p>(講義内容)</p> <p>○介護環境の特徴と理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護と施設介護サービスの違い</li> <li>・地域包括ケアの方向性</li> </ul> <p>○介護の専門性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化防止・遅延化の視点</li> <li>・利用者主体の支援体制</li> <li>・自立した生活を支えるための援助</li> <li>・根拠のある介護</li> <li>・チームケアの重要性</li> <li>・事業所内のチーム、多職種からなるチーム</li> </ul> <p>○介護に関わる職種</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる専門性を持つ他職種の理解</li> <li>・介護支援専門員・サービス提供責任者</li> <li>・看護師とチームを組み利用者を支える</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1.5 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職の倫理とは</li> <li>・介護の倫理 (介護福祉士の倫理と制度)</li> <li>・介護職としての社会的責任</li> <li>・プライバシーの保護と尊重</li> </ul>

③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 時間	(講義内容) ○介護における安全の確保 ・事故に結びつく要因を探り対応する技術 ・リスクとハザード ○事故防止安全対策 ・リスクマネジメント ・分析手法と視点 ・事故に至った経緯の報告（家族、市町村への報告等） ・情報の共有 ○感染対策 ・感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ・感染に対する正しい知識  (演習内容) ・ヒヤリハットレポートの書き方
④介護職の安全	1.5 時間	(講義内容) ○介護職の心身の健康管理 ・健康管理と介護の質 ・ストレスマネジメント・腰痛予防・手洗いうがいの励行 ・手洗いの基本 ・感染症対策
合計	6 時間	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（ 9 時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	(講義内容) ○介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・ケアマネジメント ・予防重視型システムへの転換 ・地域包括支援センターの設置 ・地域包括ケアシステムの推進 ○仕組みの基本的理解 ・保険制度としての基本的仕組み ・介護給付と種類・予防給付 ・要介護認定の手順 ○制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ・財政負担・指定介護事業者の指定
②医療との連携とリハビリテーション  (1) 医行為と介護・医療と介護の連携	2 時間	(講義内容) ・医療行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携

<p>(2) リハビリテーション医療に関する部分</p>	<p>2 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーションの理念</li> <li>・ 残存機能の回復</li> <li>・ 身体機能のリハビリテーション</li> <li>・ 生活行動のリハビリテーション</li> <li>・ 精神活動のリハビリテーション</li> </ul> <p>(演習・リハビリ設備見学)</p> <p>見学を通し、リハビリテーションがどのようなものかを知る また、見聞した内容についてグループ討議を行う</p>
<p>③障害者自立支援制度およびその他制度</p>	<p>2 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○障害福祉制度の理念</li> <li>・ 障害の概念の理解・ICF とは</li> <li>○障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解</li> <li>・ 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</li> <li>○個人を守る制度の概要</li> <li>・ 個人情報保護法</li> <li>・ 成年後見制度</li> <li>・ 日常生活自立支援事業</li> </ul>
<p>合計</p>	<p>9 時間</p>	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>(講義内容)</p> <p>○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答</li> </ul> <p>○コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的、非言語的コミュニケーションの特徴</li> </ul> <p>○利用者、家族とのコミュニケーションの実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の思いの把握</li> <li>・意欲低下の要因を探る</li> <li>・利用者の感情に共感する</li> <li>・家族の心理的理解</li> <li>・家族へのいたわりと励まし</li> <li>・信頼関係の形成</li> <li>・アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</li> </ul> <p>○利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視力、聴力の障害に応じたコミュニケーションの技術</li> <li>・失語症に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・構音障害に応じたコミュニケーション技術</li> <li>・認知症に応じたコミュニケーション技術</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <p>ロールプレイを用い、自己のコミュニケーションスタイルを知り、利用者の抱く感情や気持ちの理解を図る</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>(講義内容)</p> <p>○記録における情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における記録の意義目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録</li> <li>・介護に関する記録の種類</li> <li>・個別援助計画書</li> <li>・ヒヤリハット報告書</li> </ul> <p>○報告・連絡・相談の留意点</p> <p>○コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議</li> <li>・情報共有の場</li> <li>・役割の認識の場(利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼)</li> <li>・ケアカンファレンスの重要性</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <p>実際に介護記録を記入する</p>
合計	6時間	

6 老化の理解 ( 6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 <ul style="list-style-type: none"> <li>・防衛反応(反射)の変化</li> <li>・喪失体験</li> </ul> </li> <li>○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体的機能の変化と日常生活への影響</li> <li>・咀嚼機能の低下</li> <li>・筋力、骨、関節の低下、変化</li> <li>・体温維持機能の変化</li> <li>・精神的機能の変化と日常生活への影響</li> </ul> </li> </ul> <p>(演習内容)</p> <p>高齢者疑似体験セットで身体機能が低下している状態を体験し、機能の変化を理解する</p>
②高齢者と健康	3 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高齢者の疾病と生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・骨折</li> <li>・筋力の低下と動き、姿勢の変化</li> <li>・関節痛</li> </ul> </li> <li>○高齢者の多い病気とその日常生活上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)</li> <li>・循環器障害の危険因子と対策</li> <li>・老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、訴えの多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)</li> <li>・誤嚥性肺炎</li> <li>・症状の小さな変化に気づく視点</li> <li>・高齢者は感染症にかかりやすい</li> </ul> </li> </ul>
合計	6 時間	

7 認知症の理解( 6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1 時間	(講義内容) ○認知症ケアの理念 ・パーソンセンタードケア ・認知症ケアの視点 (できることに着目)
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ・認知症の定義 ・物忘れとの違い ・せん妄の症状 ・健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止・口腔ケア) ・治療 ・薬物療法
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	○認知症の人の生活障害、心理、行動の特徴 ・認知症の中核症状 ・認知症の行動、心理症状 ( B P S D ) ・不適切なケア ・生活環境で改善 ○認知症利用者への対応 ・本人の気持ちを推察する ・プライドを傷つけない ・相手の世界にあわせる ・失敗しないような状況を作る ・すべての援助行為がコミュニケーションであると考えて ・身体を通したコミュニケーション ・相手の様子、表情、視線、姿勢などから気持ちを洞察する ・認知症の進行に合わせたケア  (演習内容) 事例をもとに認知症への対応方法をグループで検討する
④家族への支援	1 時間	・認知症の受容課程での援助(認知症家族介護者の現状の理解) ・家族の介護負担の軽減にはどのような方法があるか(家族のレスパイトケア等)
合計	6 時間	

8 障害の理解( 3 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	0.5 時間	(講義内容) ○障害の概念と I C F ・ I C F の分類と医学的分類 ・ I C F の考え方 ○障害者福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーションの概念
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎知識	1 時間	○身体障害 ・ 視覚、聴覚、平衡機能、音声、言語、咀嚼機能、肢体不自由、内部障害 ○知的障害 ○精神障害 (高次脳機能障害、発達障害を含む) ・ 統合失調症、気分 (感情) 障害、依存症などの精神疾患 ・ 高次脳機能障害 ・ 広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの発達障害
③家族の心理、かかわり支援の理解	1.5 時間	○家族への支援 ・ 障害の理解 ・ 障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減 (演習内容) ・ 事例を基に家族との関わりについてグループごとで討議を行う
合計	3 時間	



9 こころとからだのしくみと生活支援技術（ 75 時間）			
基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	3 時間	(講義内容) ・理論に基づく介護( I C F の視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ・法的根拠に基づく介護
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4 時間	(講義内容) ・学習と記憶の基礎知識 ・感情と意欲の基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ・心の持ち方が行動に与える影響 ・体の状態が心に与える影響
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	(講義内容) ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨、筋、関節に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 ・心と体を一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点  (演習内容) ・バイタルサインチェック (体温・脈拍・呼吸・血圧の測定)
生活支援技術の学習	④生活と家事	4 時間	(講義内容) ○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ・生活歴 ・自立支援 ・予防的な対応 ・主体性、能動性を引き出す ・多様な生活習慣 ・価値観  (演習内容) ・嚥下機能低下に配慮した水分や食事作りを行う

<p>⑤快適な住環境整備と介護</p>	<p>3 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <p>○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内に多い事故</li> <li>・バリアフリー</li> <li>・住宅改修</li> <li>・福祉用具貸与</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD を活用し福祉用具、社会資源の活用、安全な住居環境の理解を深める</li> <li>・実際に福祉用具を使用し、体感してみる</li> </ul>
<p>⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>4 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <p>○整容に関する基礎知識、整容の支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱</li> <li>・身支度</li> <li>・整容行動</li> <li>・洗面の意義・効果</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD を活用し、整容支援技術（洗顔、目、鼻腔、耳、爪の清潔法、髭剃り）の理解を深める</li> <li>・片麻痺、ベッド上で全介助等の状態を想定し、実際に着衣着脱の援助を行う</li> <li>・洗面、整髪、爪の手入れ</li> </ul>

<p>⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>14 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <p>○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害する心と体の要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と介助者の双方が安全で安楽な方法</li> <li>・利用者の自然な動きの活用</li> <li>・残存能力の活用、自立支援</li> <li>・重心、重力の動きの理解</li> <li>・ボディメカニクスの基本原理</li> <li>・移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車イス間の移乗、全面介助での車イス・洋式トイレ・ポータブルトイレ間の移乗)</li> <li>・移動介助(車いす・歩行器・杖等)</li> <li>・褥瘡予防</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安楽な体位の工夫</li> <li>・体位変換、移動介助(臥位、起居動作、座位、立位)</li> <li>・車椅子⇄ベッド、ベッド⇄ポータブルトイレ、車椅子⇄洋式トイレの移乗動作</li> <li>・ボディメカニクスの活用と体位変換</li> <li>・肢体不自由者、視覚障害者の歩行介助</li> <li>・転倒予防体操を体験する</li> </ul>
<p>⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <p>○食事に関する基礎知識、食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法と食事形態と体の仕組み、食事を阻害する心と体の要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事をする意味</li> <li>・食事のケアに対する介護者の意識</li> <li>・低栄養の弊害</li> <li>・脱水の弊害</li> <li>・食事と姿勢</li> <li>・咀嚼、嚥下のメカニズム</li> <li>・空腹感、満腹感</li> <li>・好み</li> <li>・食事の環境整備(時間・場所等)</li> <li>・食事に関する福祉用具の活用と介助方法</li> <li>・口腔ケアの定義</li> <li>・誤嚥性肺炎の予防</li> </ul> <p>(演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケアの方法</li> <li>・食事介助(姿勢・摂食体験)</li> </ul>

<p>⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>10 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <p>○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、入浴を阻害する心と体の要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羞恥心や遠慮への配慮</li> <li>・体調の確認</li> <li>・全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方)</li> <li>・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法</li> <li>・陰部洗浄(臥床状態での方法)</li> <li>・足浴、手浴、洗髪</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <p>DVD を活用し、清潔保持に関する基礎知識および、清潔保持のための方法と援助のポイントを学ぶ</p> <p>入浴の手順：入浴の環境と介護、リフト浴・機械浴と介護全身清拭の手順の DVD を見て学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部分浴(足浴・手浴)を実施</li> <li>・入浴介助、全身清拭(体調の確認、環境の調整、使用物品の準備、全身の観察、清拭方法、支え方)</li> <li>・洗髪を実施</li> </ul>
<p>⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護</p>	<p>7 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <p>○排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄とは</li> <li>・プライド、羞恥心</li> <li>・プライバシーの確保</li> <li>・おむつ使用の弊害</li> <li>・排泄障害が日常生活上に及ぼす影響</li> <li>・排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連</li> <li>・一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的な方法</li> <li>・便秘の予防</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライバシーの保護</li> <li>・自立を支援する介助</li> <li>・排泄関連用具を使用した介助(ポータブルトイレ、尿器、紙オムツ等)</li> <li>・おむつ交換の実践</li> <li>・ベッド上排泄の介助の方法</li> </ul>

⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3 時間	(講義内容) ○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 ・安眠のための介護の工夫 ・環境の整備(温度や湿度、光、音など) ・安楽な姿勢 ・褥瘡予防  (演習内容) ・ベッドメイキング ・環境整備
⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3 時間	(講義内容) ○終末期に関する基礎知識と心と体の仕組み、生から死への過程、「死」に向き合う心の理解、苦痛の少ない死への支援 ・終末ケアとは ・高齢者の死に至る過程(高齢者の自然死(老衰)、癌死) ・臨終が近づいた時の兆候と介護 ・介護従事者の基本的態度 ・多職種間の情報共有の必要性
⑬介護過程の基礎的理解	4 時間	(演習内容) ・個別援助計画書の作成を通して介護過程の目的、意義、展開および介護過程とチームアプローチの方法を理解する
⑭総合生活支援技術演習	6 時間	(事例を基にグループ単位で演習・発表) 1) 要介護者・介護家族への援助(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由) 2) 要支援者への支援(概要・生活状況・状態像把握・必要な支援とその理由)  (演習内容) ・1 事例 2.5 時間程度のサイクルで実施する
合計	75 時間	
<b>10 振り返り ( 4 時間)</b>		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①振り返り	3 時間	(講義内容) ・研修を通じて学んだことや理解したことを再確認する ・就業後も継続して学習、研鑽する姿勢を形成する ・学習課題の確認を図る

<p>②就業への備えと研修修了における継続的な研修</p>	<p>1 時間</p>	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所における事例を学ぶ(福祉専門職としての心構え、事業所における OJT、継続した学習の必要性、介護保険制度における期待に応えるために)</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <p>施設及び在宅で行っている各事業所の継続研修を具体的にイメージできるよう紹介する</p>
<p>合計</p>	<p>4 時間</p>	
<p>全カリキュラム合計時間</p>	<p>130 時間</p>	